

神戸市外国語大学 学術情報リポジトリ

スペイン語問題解決型指導モデルの一提案：
日本人のコミュニケーション能力育成をめざして

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2013-03-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 塩田, 紗矢佳, Shiota, Sayaka メールアドレス: 所属:
URL	https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/1535

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



スペイン語問題解決型指導モデルの一提案

—日本人のコミュニケーション能力育成をめざして—

塩田紗矢佳

はじめに

本稿では、第二外国語¹としてスペイン語を学ぶ日本人の大学2年生²を対象にした指導モデルを提案する。

テーマを「スペインへの旅行」とし、シチュエーションを工夫することにより、授業におけるスペイン語の主体的使用を促すと期待できる。そのため、文構造や語彙などの「言語材料³習得」と、教室内での模擬的な場面における「言語活動」をセットにした指導計画及び教材を作成した。

旅行中に真にコミュニケーション能力が求められるのは、トラブルの場面である。そこで、授業では、トラブルが生じた際、その解決にかかわるコミュニケーションの方法やスペイン文化の側面などを踏まえた内容を扱う。

本提案は、自分の状況や意図を相手にいかに伝えるべきかを主体的に考え、積極的に言語を使って問題解決を図ろうとする意欲を持つ学習者の育成をめざすものである。

1. 実態調査による日本人学生の持つ課題

第二外国語としてスペイン語を学ぶ大学生へのアンケート調査⁴より、「授業外の学習」で一番自信がないのは「話すこと」の42%であり、以下、「聞くこと」

* 本稿は、日本イスペインヤ学会第57回大会（2011年10月9日、駒澤大学における口頭発表をもとに改題、加筆修正したものです。貴重なご指摘、ご意見を賜りました先生方に厚く御礼申し上げます。

なお、この論文は、『神戸市外国語大学研究科論集』第15号にスペイン語で発表した *Propuesta de un modelo de enseñanza de ELE a través de problemas que resolver para desarrollar la competencia comunicativa de los japoneses* (2012, 91-113) をもとに発展させたものである。

- 1 最近では母語以外のすべての「外国語は「第二言語」と呼ばれるが（村野井，2006；白井，2008）、日本においては、学生は英語教育（第一外国語）を受けているということを前提とするため、本稿では英語を第一外国語と位置づけ、スペイン語を「第二外国語」と呼ぶ。
- 2 スペイン語による会話やタスクに取り組みさせるため、スペイン語の基礎を予め学習していることが望ましいと考え、対象学年を大学2年とした。
- 3 中学校学習指導要領外国語編（文部科学省，2008：§2(4)）において「コミュニケーションを支えるもの」と説明されている「基礎的な語彙や表現・文法」を指す。
- 4 2009-2010年度に行ったアンケート調査結果。スペイン語を1年間履修した新2年生29名（男子10名・女子19名）を対象に行った。

が24%、「書くこと」が21%、「読むこと」が10%、「発音すること」が0%、無回答が3%であった。

また、「ネイティブスピーカーとコミュニケーションする際」に最も自信がないのは「話す」ことの49%で、以下、「聞くこと」が34%、続いて「書くこと」と「発音すること」が共に7%、「無回答」が3%であった。

この結果から、主に「話すこと」と「聞くこと」において、多くの学生が不安を感じていることが分かった。

2. 日本のスペイン語教育におけるコミュニケーション能力育成

日本におけるスペイン語教育は、従来から文法知識の指導が主流であった(山本, 1995; 江澤, 2007; 福嶋, 2011; 中島, 落合他, 2011)。しかし、英語教育の流れなどの影響を受け、スペイン語によるコミュニケーション能力の育成を目標とした授業がスペイン語初級レベルから見られるようになった(中島, 落合他, 2011)。また、スペイン語による「会話」を実践させるためのロールプレイやタスク活動などを取り入れた授業実践の報告もなされている(壇辻, 石川他, 2006; 浦, 2010a 他)。それに伴い、授業で使用する教材もその目的に沿ったかたちで出版されている(大森, 四宮, 2004; 大森, 2008他)。しかし、浦(2010c)は、学生からの希望として「話すこと」が一番に挙げられているにもかかわらず、教材や授業時間による制限から、それが難しいことを指摘している。また、クラスサイズの問題の他、授業時間や各授業の目標設定、各教員の採用する教授法なども大きく影響するとの見解(福嶋, 2004; 泉水, 2009; 浦, 2010b 他)もあることから、これらの諸問題を解決する必要がある。

3. スペイン語教育の目標

日本人のための初級外国語の指導であることから、その学習指導計画を考えるにあたっては、中学校および高等学校の学習指導要領外国語編(文部科学省, 2008; 2010)の考え方とコミュニケーション・アプローチ⁵を参考にした。

日本における外国語教育は、異文化の中でも自信を持って自己表現できる日本人の育成、つまり、学習指導要領の目標として掲げられている「国際社会に生きる日本人」⁶を育成する上での大きな使命を担っているといえる。

第1節で述べた大学生の実態調査でも明らかとなったように、日本人学生は

5 言語知識ではなく、言語の使用場面と結びついた実際的な伝達能力(コミュニケーション能力)の養成に特に焦点を当てたアプローチ。“コミュニケーション”の意味は「通じる」または「コミュニケーションを成立させよう」である(長澤, 1988: 9他)。

6 文部科学省, 中学校学習指導要領(2008: §2(2)ウ)参照。

「話すこと」と「聞くこと」について非常に不安を抱えている。また、この傾向は調査対象大学にとどまらず⁷、一般的な日本人にもあてはまるのではないだろうか。この2つはコミュニケーション場面では不可欠な技能であり、学生の実態に合わせた対策が必須であると考ええる。

コミュニケーション能力を育てるためには、いわゆる発信型の授業が効果的であり、これまでの教え方に不足気味であった言語活動を一層加える必要がある(中島, 落合他, 2011)。また、コミュニケーション能力の育成には、文法以外の実際の会話で試される実質行動⁸(ネウストプニー, 1982: 25)も重要となるため、言語活動の設計にあたっては、設定場面や内容が慎重に厳選されなければならないであろう。

4. 指導の目標

日本においてスペイン語は、専攻としてではなく、第二外国語として学ぶ学生の方が多い⁹(福寫, 2011: 585)。第二外国語としてスペイン語を学習している学生たちが、のちにその言語を使用する機会があるとすれば、「海外旅行」の可能性が最も高いだろう¹⁰。しかし、指導の目標としては、単に海外旅行で使えるスペイン語表現だけではなく、自己表現できるコミュニケーション能力の基礎を身につけることもめざしたいと考える。

本稿で提案する指導モデルでは、前述の可能性を考慮し、「スペイン語を専門としていない学生が、2年次終了時にスペインへ1週間程度の旅行ができる」という現実的な目標を達成することをめざしたものである。そこで、言語の使用場面の設定については、旅行中に体験する可能性があるトラブル、いわゆる問題解決場面を採用することにした。実際に海外で最も困るのは、買い物でも移動でも料理を注文することでもなく、その場面における予期せぬトラブルだからである。

今日では、スーパーマーケットやレストランでは会話らしい会話をするこ

7 山本純一(1995: 130)参照。

8 コミュニケーション活動(言語、非言語的な人間間の相互伝達を目的とした活動)と区別したそれ以外の人間行動。ネウストプニー(1982)参照。ここでは、言語のみならず、どのような行動をとるかという選択も求められるという意。

9 文部科学省の調査(平成21年度)において、731大学(大学院大学22校を除く)のうち、スペイン語を設置している大学は240校(国立39大学・公立21大学・私立180大学)ある。そのうち、スペイン語専攻の学科・コース等を設置している大学は16校(国立2大学・公立2大学・私立12大学)である(福寫, 2011)。

10 2009年度のある大学において、スペイン語を第二外国語として選択した新入生を対象に行ったアンケートでは、163名(男子69名・女子94名)中85名と、半数以上がスペインおよびラテンアメリカ諸国への旅行を希望しているという結果であった。

なく目的を達成することができる。そのため、決まりきった社会的スクリプトにとどまらず、言語によるコミュニケーションが強く求められるトラブルの場面を想定し、そういった問題解決的なタスクに取り組む体験を授業の中でもたせる必要があると考える。学生自身やグループ内での試行錯誤を繰り返すなかで、問題をどう乗り切れるのかということと同時に、内容を伝える際にどのように表現すれば理解してもらえるのかという点についての知識も身につけるであろうと予想する。

こうした活動は、言語材料の習得はもちろん、日々のコミュニケーションをも見つめ直すきっかけを与えるにちがいない。また、何事も自分で責任を持って判断し、他者と対話しながら物事を進めるという学習プロセスは、コミュニケーション能力の向上につながるはずである。

また、授業形態については、主に、教師のリードによるドリルの解説および練習（「言語材料習得の授業」）と、4名の小グループ¹¹でのタスクへの取り組み（「言語活動の授業」）の2つで構成した。このようにすることで、文法および表現などの習得と、それらの知識を使って臨むコミュニケーション活動の両方が可能となるであろう。

5. 指導計画

授業は、「言語材料習得」の時間を同じ週に2回（90分×2回）行う。また、次の週には、「言語活動」を2回行う¹²こととし、合計4時間¹³で1つの単位とする（資料1・2参照）。それ以後も、このパターンを繰り返す。

「言語材料習得の授業」では、1年次に学習した語彙や表現の復習とともに、機能別に分けられた旅行中の表現に関するドリルを中心に学習を行う。そのあと、「言語活動の授業」で問題解決タスク¹⁴に取り組む。なお、授業中は、スペイン語のインプットとアウトプットを増やすために、基本的にはスペイン語のみで行うこととする。

また、タスクに取り組む際、言語材料の単なる記憶再生では乗り切れないよ

11 2009年度のアンケート（註10と同じ）において、希望する授業形態に「グループ活動を中心とした授業」を選択した学生が全体の76%にのぼったという結果より、実態に即した授業形態をめざした。

12 第1回目で扱う内容が自己紹介であり、「言語活動」を行う方がより自然な流れであると考えたため、初回に関しては順序を入れ替えた。通常は「言語材料習得の授業」→「言語活動の授業」である。

13 「言語材料習得の授業」で実演を交えながらの理解促進を図り、「言語活動の授業」でタスクに2度取り組ませるため、通常の1時間ずつの授業では十分な時間がとれないことを考慮し、時間を増やした。

14 問題解決場面は、筆者自身や身近な知人の体験を踏まえて設定した。

う、言語材料のテーマとその直後の言語活動を異なるよう配置した。そうすることで、学生の応用力やコミュニケーション能力を伸ばすことができるとともに、併せて「言語材料習得の授業」のモチベーションも上がることが期待される。

6. 教科書

「言語材料習得の授業」で使用するために、スペインでの旅行の場面をもとにし、表現を機能ごとに分け、絵とともに紹介している教科書を作成した。

今回は、初級者用教科書『さあ、始めよう！スペイン語』（西川，2006）の語彙や表現を参考にした。

2年次では、1年次に学んだ言語材料が「使える」ようになることをめざし、既習事項に加え、旅行に必要な新たな語彙や表現なども機能別に習得させたいと考えた。そのため、1年次の学習を踏まえた言語材料の習得にさらに力を入れることが不可欠である¹⁵。

そこで、まず、筆者の設定した問題解決場面で予想されるモデルダイアローグを作成した。そこに出てきた語彙や表現と、西川氏の教科書にある既習事項を、問題解決場面ごとに「頼む」や「断る」といった言語の働きに応じて組み換え、配置したのである¹⁶。

教科書は、オーラル・コミュニケーションに重きを置き、会話の場面を扱う。場面や登場人物の状況に留意しながら空欄を埋めさせるなかで、言語の使用場面や機能に合った表現が学習できるようにした¹⁷。

また、教科書で扱うドリルは、空欄にあてはまるものを選択肢から選ばせる形式にする（資料3参照）。また、新出の語彙や表現については、推測の力を育成する視点から、できるだけ文脈を考えたり、場面から連想したりできるよう、絵を添えることにした。

15 浦（2010a）も指摘するように、日本人の学生を対象としているため、言語材料の習得は不可欠であると考える。

16 作成した教科書で扱う語彙数合計490語（うち253語は既習；全体の約52%）：名詞221語（うち既習：98語）・形容詞87語（うち既習：33語）・動詞97語（うち既習：59語）・副詞42語（うち既習：29語）・その他43語（うち既習：34語）。（“bueno”のように、形容詞と副詞に重複する語彙はそれぞれの品詞で数えた。）また、文法事項は、基本的な表現・動詞（直説法現在形・再帰動詞・点過去・線過去・現在完了形・未来形・接続法現在形・接続法過去形）・丁寧表現・感嘆文・数詞・指示形容詞・指示代名詞・無人称表現・命令形・関係代名詞・比較を扱う。なお、授業中に教科書以外の語彙や表現も適宜紹介するため、以上の文法事項のみにはならない。

17 主に1年次の既習事項を復習させるとともに、旅行に必要な表現や語彙も習得させるため、一般的なスペイン語初級学習の流れとは一致していない。

7. 言語材料習得の授業

この授業では、第6節で述べた「言語材料習得の授業」用に作成した教科書を使用する。授業では、教科書で扱われている言語材料やその使用場面については絵や実物を用い、また、実演しながら学生の理解を促進する。

「あいさつ」や「聞き返す」など、言語の機能に着目した実際の会話を設定し、空所補充後には、ペアやグループで役割を決め、音読練習を繰り返すよう計画している。

8. 言語活動の授業

「言語活動の授業」では、4名¹⁸の小グループで、これまでに学習した語彙や内容を使って、問題解決に取り組ませる。第6節で紹介した教科書で扱われている表現を駆使すれば、タスクになんとか対応できると想定している。併せて、各学生がそれまでに身につけた力を総合的に発揮することが求められる。

その際、その4名には、活動者2名と評価者2名という役割を持たせる。活動者の2名は日本人観光客役とスペイン人役に分かれ、先に言語活動に臨む。その活動者2名にそれぞれ評価者がマンツーマンでつき、その様子を、相互評価シートという観点別評価表をもとにチェックする。また、活動者は自身の活動のあとに、振り返りとして自己評価シートに記入する。このフィードバックは内容の充実を図るため、基本的に日本語で行わせることにした。

言語活動は同じものに2度取り組みせ、1回目の活動に関する自らの反省や相互評価を踏まえて改善する機会を作る。

授業のまとめとしては、学生が自ら体験して気づいたことや、ほかの学生の活動を観察して分かったことなどを授業の最後に全員で出し合いながら、理想のモデルダイアログ¹⁹（資料4参照）を完成させる。そこでは、積極的に学生の意見を出させるため、日本語を使用する。学生はそのモデルダイアログを各自で覚えるとともに、自分に合うように工夫し、実際のトラブルに対応することになる。

18 1クラス16名（男子8名・女子8名）と想定し、4名（男子2名・女子2名）×4グループとして構成した。想定人数は、筆者がかつて少人数クラス（計18名）を担当した経験をもとに決定した。

19 会話のモデル作成は、実際の使用場面でのインタビューや録音などをもとに筆者が行った。例示したもの（資料4）は筆者の理想とするものであるため、学生の「言語活動の授業」には同じものは求めないが、できるだけこのような流れで会話がなされるよう配慮する。

9. 「言語活動」の授業用ワークシート

「言語活動の授業」では教科書は使用せず、ワークシートで対応する（紙幅の都合上、掲載は省略）。各時間に使用したワークシート類は、ポートフォリオとしてファイルに順次綴じていくことにする。

例を挙げると、「自己紹介」がテーマの授業では、それぞれが順番に名前を言うのを聞くのではなく、ワークシートにスペイン語で記載された5つの条件に該当するクラスメイトを探し出し、彼らの名前をたずねて記入する形態をとる。そうすることで、その5つの条件をスペイン語で読む機会を持つことができる。また、会話の最初と最後の「あいさつ」を自然な形で行い、「既習事項の復習」も可能となる。さらに、名前をワークシートに書く必要があるため、「綴り」をたずねる機会も生まれるであろう。この活動では、タスクをとおしてスペイン語を自然に「使う」経験ができることに意義がある。

10. 学習指導案

「言語材料習得の時間」および「言語活動の時間」の各授業の流れを予想し、それぞれの授業（2時間分）につき1つずつ指導案を作成した（資料5・6参照）。

各授業の目標は、国立教育政策研究所教育課程研究センター（2011）の評価に関する参考資料をもとに、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」、「表現の能力」、「理解の能力」、「言語知識・文化理解」の4観点に分け、指導目標を具体的に示している。

また、学習指導過程の欄は、「学生の学習活動及び内容」と「教師の指導・支援活動」とに大きく分け、それぞれの立場でどのような活動に取り組むかを示している。後者に関しては、教材を使用する際や学生が活動する際に留意させる点、また、授業中に必ず押さえるべき点などが確認できるよう記した。

11. 授業中における教師と学生の発話計画

授業中の教師によるスペイン語の発問と学生による発話の予想例も作成した。学生は1年間スペイン語の基礎を学んではいるが、1年次の授業が言語材料の習得に重きを置いていることを想定し、スペイン語で説明しながらも、ジェスチャーや表現の繰り返しを多用している。

また、「スペイン語で授業を進める」ことで、教師は学生の意欲を促す言葉かけが日本語より自然にできるようになるのではないだろうか。教師の積極的な励ましによって、学生はたとえその発言や解答が誤っていたとしても、発表することに前向きになるであろうと期待できる。

12. 評価

評価は、各授業においての①自己評価と学習集団を構成するメンバーによる相互評価を併せた「ポートフォリオ評価」、②学期末に行う言語材料の習得度を測る「筆記試験」、③言語活動を教師が評価する「実技試験」の3点から、総合的に行う。

①のポートフォリオ評価の一部となる自己評価シート²⁰（資料7参照）は、学生自身がどのような心構えで授業に臨めばいいのか、授業ではどのようなことに気をつけ、何を自己の学習課題として取り組めばいいのか気づくことができるよう工夫した。それは、教師が評価の観点について口頭で説明したり、改善点などを何度も注意したりするよりもはるかに効果があると期待できる。また、自由記述部分（資料7の設問2・3・5参照）を設けることで、学生の実態がより深く分かるとともに、次回の活動における指導・支援に生かすことができると思う。

相互評価シート（資料8参照）は、「言語活動」において自己の学習状況について自分自身ではとらえがたい点を考慮し、グループ内のほかのメンバーが評価者となり、問題解決を図ろうとするプロセスを、観点別に評価させるものである。ほかの学習者の活動への取り組み方を観察することにより、注意すべきポイントを事前に把握することができる「フィード・フォワード」のメリットが生かせると考えた。また、観察をしながら評価の記録をとりやすくするため、A：「大変よくできていた」、B：「できていた」、C：「できていなかった」の3段階に絞り、点数化できるようにした。活動の取り組み方に関する特記事項については、コメントの欄に書かせる。

スペイン語の使用度については、評価シートにあらかじめ記載してある割合を選択させ、会話者が次回の目標として意識できるようにした。

2回目の言語活動では、1回目の課題が客観的に見て達成されたか否かを問う項目を設け、評価者としての意識を高く持つよう配慮している。

②の「言語材料習得の授業」における筆記試験では、教科書をとおして学んだ語彙や表現を、筆記形式で問う（掲載は省略）。形式は教科書と同様、コミュニケーションの場面における会話の中の空所補充とする²¹。

20 タスク2回目の自己評価シートでは、自らが設定した目標を達成することができたか否かを問う（紙幅の都合上、掲載は省略）。

21 言語材料がきちんと身につけているかどうかの確認のため、選択肢は設けない。

さらに、③の「言語活動の授業」の実技試験では、それまでに実践した問題解決場面のなかから、教師が各学生の自己評価シートに書かれた課題や苦手な分野を把握したうえで、各学生に合わせて問題解決場面を設定して行う。形式は、教師と学生で行うこととし、学生に日本人旅行者の役をさせる。さらに、会話中、事前に知らせずに、適切な場面で「突然話すスピードを極端に上げる」、あるいは、「いきなり英語で話しかける」ことを仕掛け、学生の対応を確認する。これは、予想外の相手の言動に対してきちんと対処できるかどうかを診断するものである。その場面を乗り切れたとすれば、コミュニケーション能力がある程度身についたものと判定し、評価する。

試験の採点については学生間の相互評価シートと同様にABC評価とし、それを点数化する(資料9参照)。評価シートは採点后、学生に返却し、その後の実践に生かすことができるようフィードバックの時間を設け、指導する。

評定に関しては、評価基準に従って算出された筆記および実技試験の結果と、毎回の授業後に行う自己評価・相互評価のポートフォリオを参考にした個人内評価²²を総合的に判断して行う。

13. 今後の課題

本稿では、「異文化の中でも自信をもって自己表現ができる日本人の育成」をめざし、言語材料の習得とリアルなコミュニケーション活動を一体化させた指導モデルを提案した。

2年次で言語活動にしっかりと取り組ませることは、1年次の学習を生かすことになる。つまり、主体的な言語使用により、基礎を身につけることも可能になると考える。また、スペイン旅行中の問題解決を図る学習をとおして、問題場面に対応する力の育成が期待できるであろう。そのような観点から、現実的なテーマの言語活動を中心とした指導モデルを開発した。

今後は、仮説である本指導計画に沿って実際に指導し、その授業分析を通じて仮説を検証するとともに、日本人のコミュニケーション能力育成という視点から浮かび上がるさまざまな問題点や課題に取り組んでいきたいと考えている。

22 「個人内評価」とは、同一人物の過去の成績との比較により評価することである。

参考文献

- 壇辻正剛・石川保茂・河上志貴子・村上正行・鈴木しのぶ・立岩礼子（2006）
英語・スペイン語同時学習における授業デザインの構築タスク活動を中心に
据えて一、『日本教育工学会研究報告集』06(5), pp.7-14. 東京：日本教育
工学会.
- 江澤照美（2007）ヨーロッパ言語共通参照枠（MCER）と日本の大学におけるス
ペイン語教育―読解授業と教材―、『愛知県立大学記要 言語・文学編』39,
pp.133-157. 愛知：愛知県立大学.
- 福嶋教隆（2004）日本語話者を対象とするスペイン語教育の動向、『神戸市外国
語大学外国学研究』57, pp.1-33. 神戸：神戸市外国語大学.
- 福嶋教隆（2011）日本におけるスペイン語教育、『スペイン文化事典』, pp.584-
585. 東京：丸善.
- 国立教育政策研究所 教育課程研究センター（2011）. 評価基準作成, 評価方法
等の工夫改善のための参考資料（中学校 外国語）, pp.25-26.
http://www.nier.go.jp/kaihatsu/hyoukahouhou/chuu/0209_h_gaikokugo.pdf
(最終参照2012年2月15日)
- 村野井仁（2006）『第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法』東
京：大修館書店.
- 文部科学省（2008）『中学校学習指導要領解説 外国語編』東京：開隆堂.
- 文部科学省（2010）『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編』東京：開隆
堂.
- 文部科学省高等教育局大学振興課（2011）大学における教育内容等の改革状況
について（平成21年度）
[http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daigaku/04052801/_icsFiles/afieldfile/
2011/08/25/1310269_1.pdf](http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daigaku/04052801/_icsFiles/afieldfile/2011/08/25/1310269_1.pdf)（最終参照2012年2月15日）
- 長澤邦紘（1988）『コミュニカティブ・アプローチとは何か その理論と展開』東
京：三友社出版.
- 中島さやか・落合佐枝・大森洋子・菅原昭江（2011）日本の大学における初級
スペイン語教育のための教科書評価の枠組み（試案）と『Entre amigos』の
ケース―コミュニケーション能力獲得を目指した授業で―、『明治学院大
学 教養教育センター紀要 カルチュラル』5(1), pp.183-200. 横浜：明治学
院大学 教養教育センター.
- ネウストプニー, J.V. (1982) 『外国人とのコミュニケーション』東京：岩波書
店.
- 西川喬（2006）『さあ、始めよう！スペイン語』東京：同学社.

- 大森洋子・四宮瑞枝 (2004). 『タスクで作ろう、活気ある教室—初級スペイン語授業の改善を目指して—』 東京：芸林書房.
- 大森洋子 (2008) 『アクティビティで学ぶスペイン語 初級から中級へ』 東京：朝日出版社.
- 泉水浩隆 (2009) 日本（の大学）における第2外国語教育をめぐる現状と課題—スペイン語教育を中心に—, 『学苑』 821, pp.43-52. 東京：昭和女子大学近代文化研究所.
- 白井恭弘 (2008) 『外国語学習の科学—第二言語習得論とは何か』 東京：岩波書店.
- 浦真佐子 (2010a) 学習意欲を高めるスペイン語授業の一考察, 『文教大学国際学部紀要』 20(2), pp.17-35. 神奈川：文教大学.
- 浦真佐子 (2010b) 第2外国語としてのスペイン語の授業を考える—1年を通じた学生へのアンケート調査から—, 『人文研紀要』 68, pp.95-125. 東京：中央大学人文科学研究所.
- 浦真佐子 (2010c) 学習意欲を高めるためのテキストを考える—学生の視点から見たスペイン語テキストの問題点と工夫—, 『人文研紀要』 69, pp.49-77. 東京：中央大学人文科学研究所.
- 山本純一 (1995) 学習者の意見も考慮したスペイン語初級の授業創りに向けて—神奈川大学・山本教室でのアンケート結果をもとにして—, 『イスパニカ』 39, pp.129-142. 東京：日本イスパニヤ学会.

資料 1 前期の学習指導計画

授業回数	課	週目	授業内容	各課のテーマ・扱う言語の機能・タスク
1	1	1	言語活動	自己紹介
2			言語材料習得	「旅行をしよう！」(旅程を立てる) あいさつ・聞き返す・好きなもの、苦手なものを伝える・願望
3		2	言語活動	見知らぬ人に話しかけられる場面でのタスク①
4			言語材料習得	「買い物に行こう！」 店での会話・品物の色や材質・依頼・許可・意見を述べる
5	2	3	言語活動	物が受け取れないことを訴えるタスク
6			言語材料習得	「ホテルで宿泊」 手続きをする・時・情報を求める・苦情を言う
7		4	言語活動	法外な料金を請求され、苦情や問題を伝えるタスク
8	言語材料習得		「道をたずねよう！」 場所をたずねる・確かめる・断る・助言をする	
9	3	5	言語活動	落とし物をし、それについて説明するタスク
10			言語材料習得	「バルで食事をしよう！」 店に入る・注文する・サービス・支払いをする・指摘する
11		6	言語活動	変更を依頼するタスク
12	言語材料習得		「日本を紹介しよう！」 紹介する・説明する・意見を交わす・感情を表す	
13	4	7	言語活動	希望するものを探すタスク
14			言語材料習得	復習
15		8	言語活動	言語材料のテスト
16			言語材料習得	言語活動のテスト
17	5	9	言語活動	テストにおける評価・フィードバック
18			言語材料習得	
19		10	言語活動	
20	言語材料習得			
21	6	11	言語活動	
22			言語材料習得	
23		12	言語活動	
24			言語材料習得	
25	5	13	言語活動	
26			言語材料習得	
27		14	言語活動	
28			言語材料習得	
29		15	言語活動	
30			言語材料習得	
31	16	言語活動		

資料2 後期の学習指導計画

授業回数	課	週目	授業内容	各課のテーマ・扱う言語の機能・タスク
1	7	1	言語材料習得	「盗難に遭ったら」 助けを求める・危険を回避する・情報を求める・届け出る
2			言語活動	道に迷ったことを訴えるタスク
3		2	言語材料習得	「駅や空港の窓口で」 依頼する・注文する・情報を求める
4			言語活動	勘定に誤りがあることを訴えるタスク
5	8	3	言語材料習得	「体調が悪くなったら」 不調を訴える・借りる・情報を求める・薬の処方を受ける
6			言語活動	見知らぬ人に話しかけられる場面でのタスク②
7		4	言語材料習得	「病院で診察を受ける」 手続きをする・症状を訴える・診断を受ける・薬の処方を受ける
8			言語活動	体調が悪くなったことを訴えるタスク(病院以外で)
9	9	5	言語材料習得	「おもしろい出会い」 方言を知る(スペイン国内・ラテンアメリカ)
10			言語活動	交通の遅れで定刻に間に合わないことに対処するタスク
11		6	言語材料習得	「おもしろい出会い」 方言を知る(スペイン国内・ラテンアメリカ)
12			言語活動	交通の遅れで定刻に間に合わないことに対処するタスク
13	10	7	言語材料習得	「おもしろい出会い」 方言を知る(スペイン国内・ラテンアメリカ)
14			言語活動	交通の遅れで定刻に間に合わないことに対処するタスク
15		8	言語材料習得	「おもしろい出会い」 方言を知る(スペイン国内・ラテンアメリカ)
16			言語活動	交通の遅れで定刻に間に合わないことに対処するタスク
17	11	9	言語材料習得	「おもしろい出会い」 方言を知る(スペイン国内・ラテンアメリカ)
18			言語活動	交通の遅れで定刻に間に合わないことに対処するタスク
19		10	言語材料習得	「おもしろい出会い」 方言を知る(スペイン国内・ラテンアメリカ)
20			言語活動	交通の遅れで定刻に間に合わないことに対処するタスク
21	12	11	言語材料習得	「おもしろい出会い」 方言を知る(スペイン国内・ラテンアメリカ)
22			言語活動	交通の遅れで定刻に間に合わないことに対処するタスク
23		12	言語材料習得	「おもしろい出会い」 方言を知る(スペイン国内・ラテンアメリカ)
24			言語活動	交通の遅れで定刻に間に合わないことに対処するタスク
25	13	13	フィードバック	復習
26			テスト	言語材料のテスト
27		14	フィードバック	復習
28			テスト	言語活動のテスト
29		15	フィードバック	復習
30			テスト	言語材料のテスト
31		16	フィードバック	復習
	テスト		言語活動のテスト	

資料3 「言語材料習得の授業」で使用する教科書例

Lección 2 ¡Vamos de compras! - 買い物に行こう! -

1. 店での会話

- ① A: Hola, _____ tardes.
 B: _____.
 A: ¿Necesita ayuda?
 B: No, _____. Sólo estoy _____.



2. 依頼する

- ① A: Hola, _____ días.
 B: Hola.
 A: Léverme _____ Hotel Aeropuerto, _____.
 B: Muy bien.



3. 許可を求める

- ① A: _____, por favor.
 B: Sí, dígame.
 A: ¿ _____ mirar esta ropa?
 B: _____ que sí. ¿Es ésta?
 A: Sí.
- ② A: ¿Se puede pagar _____ tarjeta de crédito?
 B: _____ siento mucho.
 _____ que pagarlo _____ efectivo.
 A: De acuerdo.



4. 意見を述べる

- ① A: Me _____ con esto.
 B: Muy bien. 30 euros, _____ favor.
 A: ¡¿30 euros?! No puedo _____.
 B: Bueno bueno, entonces, 28 euros.
 A: Todavía es _____.
 B: Hombre, ¡es _____, eh!



quedo demasiado pagar caro barato por lo puedo con tiene en claro oiga
 favor buenos gracias buenas al favor mirando por hay demasiado hola perdón

資料4 「言語活動の授業」でのモデルダイアローグ例

1 課 見知らぬ人から話しかけられる場面でのタスク (例: 飛行機の中で)

Desconocido (D) : Hola.

¿Hablas español?

Turista (T) : ... Sí, un poco.

D : Muy bien. Hola, soy David.

T : Hola. Soy Hanako.

D : Encantado.

T : Igualmente.

D : ¿De dónde eres?

T : Soy de Japón.

D : Ah, de Japón.

T : Y ¿tú?

D : Soy de Santiago de Compostela, pero ahora vivo en Barcelona.

T : Muy bien.

D : ¿Es la primera vez que visitas España?

T : ¿ Otra vez, por favor?

D : Que si ¿es la primera vez que visitas España?

T : Sí. Estoy muy contenta.

D : Me alegro.

Seguro que te gustará.

T : Espero que sí.

D : ¿Para qué vas a Barcelona?

T : Para viajar.

Me gustaría visitar lugares conocidos, como La Sagrada Familia y El Parque Güel.

D : Ya, son preciosos.

¿Cuánto tiempo te vas a quedar allí?

T : En Barcelona, me voy a quedar cuatro días.

Y luego voy a Madrid.

D : ¿Vas a Madrid también? ¡Qué bien!

T : Sí. Tengo mucha ilusión.

D : ¡Pásalo bien!

¡Y buen viaje!

T : Muchas gracias. Tú también.

資料5 「言語材料習得の授業」の指導案例

第2学年 学習指導案（「言語材料習得の授業」用）

1. 日 時 前期授業 3週目
 2. 学 級 大学生 第2学年(男子8名・女子8名)16名 【4名×4グループで活動】
 3. 題 材 スペインへの海外旅行(第1課-1.2 買い物に行こう!)
 4. 学習指導計画 言語材料習得の授業時間 90分×2回/週
 5. 本課の学習指導目標

(1) 目標

- ① 買い物をする場面や、スペインで自分の行きたい観光地特有のおみやげを紹介する活動に積極的に取り組もうとする。
 [コミュニケーションへの関心・意欲・態度]
- ② 自分が購入したい品物の詳細を伝えることができる。
 購入金額について交渉することができる。
 [表現の能力]
- ③ 買い物の場面で使われる表現を聞いて理解することができる。
 品物についての説明を聞きとることができる。
 [理解の能力]
- ④ スペインでの買い物に必要な表現(あいさつ・断り方など)や文化的違いに関する知識を身につける。
 神経衰弱(語彙習得ゲーム)、買い物ゲーム、おみやげ紹介の活動をとおして、自分の希望や条件などに合う品物を見つけるための語彙や表現力の増強を図る。
 [言語知識・文化理解]

(2) 準備物

ガイドブック・品物語彙かるた・ワークシート・スペインのおみやげ(木靴)

(3) 学習指導過程

学生の学習活動・内容	教師の指導・支援活動
1. あいさつをする。	・ 最初からスペイン語であいさつをする。(“Hola.”, “Buenos días.”などスペイン語で行う。)
2. 本時の目標を知る。	・ 教科書などの教材やゲーム、ミニタスクで学習した後、グループごとに最終的にスペイン語で買い物をするという目標を提示する。
3. 教科書の答えを発表する。 ・ 家で教科書の予習としてドリルを解いてきている。 (語彙調べ・空所埋め)	・ テキストに関しては予習を前提とし、授業に対する意欲を育てる。 ・ 学生にスペイン語で問いかけ、発言を求める形をとる。 ・ 説明が複雑になる単語以外は基本的にスペイン語のみで説明を行う。日本語はあくまで限定的に使用し、教室の中ではスペイン語を使用することが自然な雰囲気となるよう配慮する。 ・ 同じことに学生と一緒に正解を求めていく。最初に教師がその場面に合ったイントネーションで音読し、学生がその場の雰囲気をつかみやすいよう工夫する。忘れていたり、理解ができていなかったりと思われる箇所は、見しいスペイン語とジェスチャー、黒板に書く絵などで理解を促す。 ・ 新出事項は特に、既習の表現も繰り返しイントネーションに留意させ、音読指導をする。(2度以上)
..... 途中省略	・ 1のゆで、スペインや他の国では、容もあいさつを返すことに気づけるよう配慮する。 ・ 空港やデパートなど、年齢に関係なく usted が使われると、絵とともに説明する。 ・ “¿Necesita ayuda?”だけでなく、“¿Qué desea?”もよく使われることを紹介する。日本では無視する容もあるが、外国では「見ているだけです。」や「結構です。」などの返答が必要。 ・ 学生の状態を見ながら、“¿Necesita(s) ayuda?”とたずね、“No, gracias.”と答えるのであれば、その言い方も確認する。(ジェスチャーなどを使えるかどうかもある。) ・ guíaにはガイドの意味の他にガイドブックの意味もあることを、実物を見せて説明する。 ・ “¡Vaya!”の使い方を、既習の“¡Hombre!”を例に出しながらロールプレイで示す。 ・ 一旦、教科書はここで区切る。..... 途中省略
4. 4人1グループに分かれ、買い物の場面でよく使う品物の語彙を覚えるかるたゲームに取り組む。(神経衰弱)	・ 絵と、その単語のカードを一致させる神経衰弱ゲームを行わせ、語彙の習得をめざす。 ・ 予め語彙カードと絵カードは2つに分けて配置しておく。先に語彙カードをめくり、“¿Me gustaría comprar (カードに書かれている品物の単語).?”と言い、その語彙と同じ意味の絵カードをめくり、探し当てることができれば、“Me quedo con (品物の単語).?”と言って買うことができるとする。他のメンバーは“Gracias.”と返す。同じもの同士が一致しなければ、希望する品物がなかったということになり、他のメンバーは“Lo siento, no lo tenemos.”と答える。(この流れでゲームを続ける。)
5. 宿題を知る。 ・ 以前、グループごとに決定したスペインの行き先(都市)特有のおみやげを調べ、その場で必要になる語彙や表現を書きとめておく。	・ (旅行することを想定し、2回目の言語活動の授業で決定させている各グループのスペインでの行き先特有のおみやげについてガイドブックやインターネットをとおして調べ、買い物をする際にどのような表現が必要になるか、想定した例文をワークシートに記入するよう伝える。 ・ 次回の言語活動の授業で、クラスメイトにスペイン語でそのおみやげを紹介できるよう指示する。その際、ワークシートにある調査項目を参考にし、写真や絵などとともに、具体的に説明するよう助言する。(既習の語彙や表現を使うよう指示する。) ・ 例として、教師が1つ、ガリシアのおみやげである木靴の置物について説明する。 以下省略
..... 以下省略 以下省略

資料6 「言語活動の授業」の指導案例

第2学年 学習指導案（「言語活動の授業」用）

1. 日 時 前期授業2週目
2. 学 級 大学生 第2学年 (男子8名・女子8名)16名 【4名×4グループで活動】
3. 題 材 スペインへの海外旅行 (第1課-2 見知らぬ人に話しかけられる①)
4. 学習指導計画 言語活動の授業 90分 (1時間分)
5. 本課の学習指導目標
 - (1)目標
 - ①自己紹介、旅行の目的や期間などを説明する活動に積極的に取り組もうとする。【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
 - ②自分の名前、出身、好きなことなどの自己紹介ができる。
旅行地の目的や行き先、期間などを表現することができる。 【表現の能力】
 - ③相手の自己紹介や観光に関する情報、希望、行き先などを聞きとることができる。 【理解の能力】
 - ④自己紹介の際のマナーを知る (名前の発音の丁寧さ・ustedやtúなどの表現の選択・アイコンタクトなど)。
自己紹介や旅行の目的や期間などを説明する活動をとおして、語彙・表現力の増強を図る。 【言語知識・文化理解】

- (2) 準備物
指令カード・自己評価シート・相互評価シート・ワークシート

(3) 学習指導過程

学生の学習活動・内容	教師の指導・支援活動
1. あいさつをする。 2. 活動の内容を知る。 ・4人1グループで活動し、2人1組で会話を行う(会話者)。 ・残りの2人が会話者それぞれの評価者となる。 3. 第1回目の活動に取り組む。	・最初からスペイン語であいさつをする。(“Hola.”, “Buenos días.” など) ・会話者2名のうち、1名は①飛行機で隣になるスペイン人役、もう1名を②日本人旅行者役と設定する。②の学生は日本語で書かれている指令カードをくじで引き、そこにある情報を使って①の学生と(質問を軸に)会話する。指令カードには、出身・目的・仕事・旅行期間など、3つを予め教員が書いておき、残り2つの質問は①の学生に自由に決めさせる。(質問を考える時間をとる。) <1回目-(1)> 会話者：学生 A(スペイン人役) 学生 B(日本人役) 評価者：学生 C(Aの評価を) 学生 D(Bの評価を) <1回目-(2)> 会話者：学生 C(スペイン人役) 学生 D(日本人役) 評価者：学生 A(Cの評価を) 学生 B(Dの評価を) <1回目-(3)> 会話者：学生 B(スペイン人役) 学生 A(日本人役) 評価者：学生 D(Bの評価を) 学生 C(Aの評価を) <1回目-(4)> 会話者：学生 D(スペイン人役) 学生 C(日本人役) 評価者：学生 B(Dの評価を) 学生 A(Cの評価を) ・②の学生には、①の学生からの質問に自分の立場で答えるよう指示する。困難な場合も、なんとか工夫して乗り切るよう伝える。(あとでフィードバックする。) ・4人グループ中、活動者以外の2名に、評価シートにチェックするよう指示する。
4. 【1】第1回目の活動後、評価者は会話者に相互評価シートを渡す。 【2】会話者は活動を振り返り、自己評価シートに記入する。 5. 第2回目の活動に取り組む。 (4の【1】、【2】と同様) 6. まとめをする。 【1】グループ内で活動を振り返り、その会話をワークシートに記入。 【2】ワークシートをもとに、クラス全体で共有し、モデルダイアログを完成させ、書きとめ、ファイルに綴じ、提出する。	・評価者のチェックした相互評価シートを会話者に返し、2回目の活動に生かすことができるようにフィードバックの時間をとる。会話者はその相互評価シートを基に、自己評価シートに記入する。 ・今回最初に会話した学生が次の課の言語活動では先に評価者となる。 ・改善点を認識したうえで、全員にもう一度同じ言語活動に取り組むよう指示する。(3と同じ要領で、全員が①役と②役の両方を実践できるよう、役を交替するよう指示する。) ・本時の問題を解決するためのモデルダイアログを全員で完成させる。*途中者略* ・まず、(日本語で)1グループ内で自分たちがどのような会話をしたのかを思い出し、ワークシートにスペイン語で記入するよう指示する。 ・そのあと、全体で、「この質問に対してどのように答えるべきか」や「他にはどのような言い方があるのか」などを話し合い、教員は議論をリードしながら出てきたダイアログを黒板に書く。 ・自己評価シート、相互評価シート、まとめのワークシートをファイルに綴じ提出するよう求める。

6. 評価

- ・活動を振り返り、予想外に困った点やそれをどのように乗り切ったのかなど、自らを客観的に見つめることができていますか。
- また、次の活動に生かそうとしているか。2回目の自己評価シートによって評価を行う(個人内評価)。

資料7 「言語活動の授業」における自己評価シート例

自己評価シート	Fecha: _____, 2012
Lección 5 変更を依頼する	
Actividad <u> 1 </u> 回目	Nombre: _____
<p>1 自分の伝えなかったことは、相手に伝わっていたと思いますか。チェックをつけてください。</p> <p><input type="checkbox"/> 伝わっていたと思う <input type="checkbox"/> なんとか伝わったと思う <input type="checkbox"/> ほとんど伝わらなかったと思う</p>	
<p>2 会話中、できるだけスペイン語だけで話すことができましたか。</p> <p><input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> どちらともいえない</p>	
<p>「いいえ。」または「どちらともいえない。」の場合、それはなぜですか。</p> <p>_____</p>	
<p>授業を振り返り、うまく言えなかったり分からなかったりした言葉や表現があれば、今後のためにも書きとめておきましょう。</p> <p>_____</p>	
<p>3 次の項目について、自分が理解できたと思うものにチェックをつけてください。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内でのメンバー同士の会話 ・教師の説明 ・教師の質問 ・教師の指示 	<p><input type="checkbox"/>はい <input type="checkbox"/>いいえ</p> <p><input type="checkbox"/>はい <input type="checkbox"/>いいえ</p> <p><input type="checkbox"/>はい <input type="checkbox"/>いいえ</p> <p><input type="checkbox"/>はい <input type="checkbox"/>いいえ</p>
<p>話し手に望むことがあれば、書いておきましょう。(例) もっとゆっくり話してほしい。</p> <p>_____</p>	
<p>4 次の項目について、自分が当てはまると思うものにチェックをつけてください。</p>	
<p><input type="checkbox"/>アイコンタクト（話す相手の目を見て）に気がつけた。</p> <p><input type="checkbox"/>聞き手が分かりやすいように大きな声ではきはきと話すことができた。</p> <p><input type="checkbox"/>学習した内容を会話の中でも使うように努力した。</p>	
<p>5 本時の授業を振り返り、次回に取り組みたい自分の課題は何だと思いますか。</p> <p>_____</p>	

資料 8 「言語活動の授業」における相互評価シート例

相互評価シート	Fecha: _____, 2012				
Lección 5 変更を依頼する					
Actividad <u> 1 </u> 回目	評価者名 _____ 会話者名 _____				
1. ペアの友達のスペイン語使用度を、以下の当てはまるものにチェックをつけてください。 <input type="checkbox"/> 90%以上 <input type="checkbox"/> 70%以上 90%未満 <input type="checkbox"/> 50%以上 70%未満 <input type="checkbox"/> 30%以上 50%未満 <input type="checkbox"/> 0%以上 30%未満					
2. 次の項目について、友達に当てはまる方のアルファベットに○をつけてください。					
① 表情・態度・マナーに関して					
	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 33%;"></td> <td style="width: 33%; text-align: center;">大衆良くてきていた</td> <td style="width: 33%; text-align: center;">できていた</td> <td style="width: 33%; text-align: center;">できていなかった</td> </tr> </table>		大衆良くてきていた	できていた	できていなかった
	大衆良くてきていた	できていた	できていなかった		
・アイコンタクト	A	B	C		
・声の大きさ	A	B	C		
・相手に対する言い方やマナー	A	B	C		
・表情の豊かさ	A	B	C		
・会話を続けようとする	A	B	C		
② スペイン語の理解に関して					
・相手の質問を一度で理解すること	A	B	C		
③ スペイン語の表現に関して					
・会話中自然に自分について話すこと	A	B	C		
・表現が適切であること	A	B	C		
3. 友達の活動を見ていて、よかったと思ったことや気になったことなどを、自由に書いてください。					

資料 9 「言語活動」の試験における教師用評価シート

教師用 言語活動評価シート	学籍番号 _____																																																				
	氏名 _____																																																				
<p><評価項目：応用編></p> <p>① 故意に早口で話す</p> <p>② (課題を始めてから)最初にいきなり英語で話しかける</p> <table style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">選択した項目 ()</th> <th style="text-align: center;">大変良くできていた A</th> <th style="text-align: center;">できていた B</th> <th style="text-align: center;">できていなかった C</th> </tr> </thead> </table>		選択した項目 ()	大変良くできていた A	できていた B	できていなかった C																																																
選択した項目 ()	大変良くできていた A	できていた B	できていなかった C																																																		
問題解決場面 ()																																																					
<p><観点別評価項目></p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;"></th> <th style="text-align: center;">大変良くできていた</th> <th style="text-align: center;">できていた</th> <th style="text-align: center;">できていなかった</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 表情・態度・マナーに関して</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・アイコンタクト</td> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">C</td> </tr> <tr> <td>・声の大きさ</td> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">C</td> </tr> <tr> <td>・相手に対する言い方やマナー</td> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">C</td> </tr> <tr> <td>・表情の豊かさ</td> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">C</td> </tr> <tr> <td>・会話を続けようとする</td> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">C</td> </tr> <tr> <td>・最後のお礼を笑顔で言うこと</td> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">C</td> </tr> <tr> <td>② スペイン語の理解に関して</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・質問を一度で理解すること</td> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">C</td> </tr> <tr> <td>③ スペイン語の表現に関して</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・会話中自然に自分について話すこと</td> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">C</td> </tr> <tr> <td>・表現が適切であること</td> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">C</td> </tr> </tbody> </table> <p style="margin-top: 10px;"><今後の活動に向けてのメッセージ></p> <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%; margin-top: 5px;"></div>			大変良くできていた	できていた	できていなかった	① 表情・態度・マナーに関して				・アイコンタクト	A	B	C	・声の大きさ	A	B	C	・相手に対する言い方やマナー	A	B	C	・表情の豊かさ	A	B	C	・会話を続けようとする	A	B	C	・最後のお礼を笑顔で言うこと	A	B	C	② スペイン語の理解に関して				・質問を一度で理解すること	A	B	C	③ スペイン語の表現に関して				・会話中自然に自分について話すこと	A	B	C	・表現が適切であること	A	B	C
	大変良くできていた	できていた	できていなかった																																																		
① 表情・態度・マナーに関して																																																					
・アイコンタクト	A	B	C																																																		
・声の大きさ	A	B	C																																																		
・相手に対する言い方やマナー	A	B	C																																																		
・表情の豊かさ	A	B	C																																																		
・会話を続けようとする	A	B	C																																																		
・最後のお礼を笑顔で言うこと	A	B	C																																																		
② スペイン語の理解に関して																																																					
・質問を一度で理解すること	A	B	C																																																		
③ スペイン語の表現に関して																																																					
・会話中自然に自分について話すこと	A	B	C																																																		
・表現が適切であること	A	B	C																																																		